世界文化遺産に推薦決定

明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域

９月、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が、ユネスコの世界文化遺産に推薦されることが決定しました。

今後、平成27年夏頃に開催されるユネスコ世界遺産委員会での審査を経て、登録の可否が決定される予定です。

この「産業革命遺産」が平成27年に登録されるよう、全力を傾けていきます。

また、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦については見送りとなりましたが、引き続き来年度の推薦に向け取り組みを進めます。

世界遺産推進室
（☎ 829-1260）

～産業革命ストーリー～

きっかけは、志士の挑戦

19世紀、鎖国を続ける日本に外国が次々と開国を求めてやってきました。同じ頃、アヘン戦争で中国が英国に敗戦したこともあり、日本には欧米列強の動きに危機感が広がりました。そのような中、諸藩の志士は造船、石炭、製鉄・鉄鋼分野で西洋の技術を取り入れることにいち早く挑戦し、近代化を目指すきっかけとなりました。

造船、石炭、製鉄・鉄鋼産業の発展

19世紀後半、日本では、自国の伝統的な技術に西洋技術を取り入れて、のちに日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基礎を築きました。

造船分野では1857年、オランダの技術者たちを長崎へ招いて、造船所の建設が始まりました。これが長崎造船所の始まりで、日本で初めて近代的な洋式工場、長崎製鐵所（せいてつしょ）が1861年に完成しました。

石炭分野では、外国の蒸気船燃料として、佐賀藩と英国商人グラバーが高島炭坑を開発。その後、端島炭坑や三池炭鉱（福岡・熊本県）が次々に開坑されました。

製鉄・鉄鋼分野は釜石（岩手県）の洋式高炉が大量生産の基礎をつくり、後に、ドイツ人技術者の協力で、官営八幡製鐵所（福岡県）が操業を開始しました。

急速な発展は奇跡とも呼ばれた

これらの産業は、明治後期までのわずか半世紀余りで飛躍的に発展しました。その発展のスピードは、世界的に見ても、たぐいまれで奇跡とも呼ばれました。

その歴史を証明する貴重な遺産が、「産業革命遺産」です。28の資産で構成されていて、九州・山口を中心に、全国８県11市に分散していますが、28資産全体で世界遺産の価値を物語るものとして光が当てられています。

日本の発展を支えた市内の構成資産

「産業革命遺産」の28の構成資産のうち、長崎市内には8つの資産があり、造船と石炭産業の分野で、日本の発展を支えました。

その資産は、皆さんが良く知っている観光名所だったり、通勤・通学などで何気なく見かけていたものだったり…。資産を見ると、改めて、長崎にはさまざまな歴史があることを感じることができますね。

今後、皆さんに「世界遺産に登録されて良かった」と思ってもらえるように、そして、世界遺産登録をきっかけにまちの魅力が高められるように、取り組みを進めていきます。

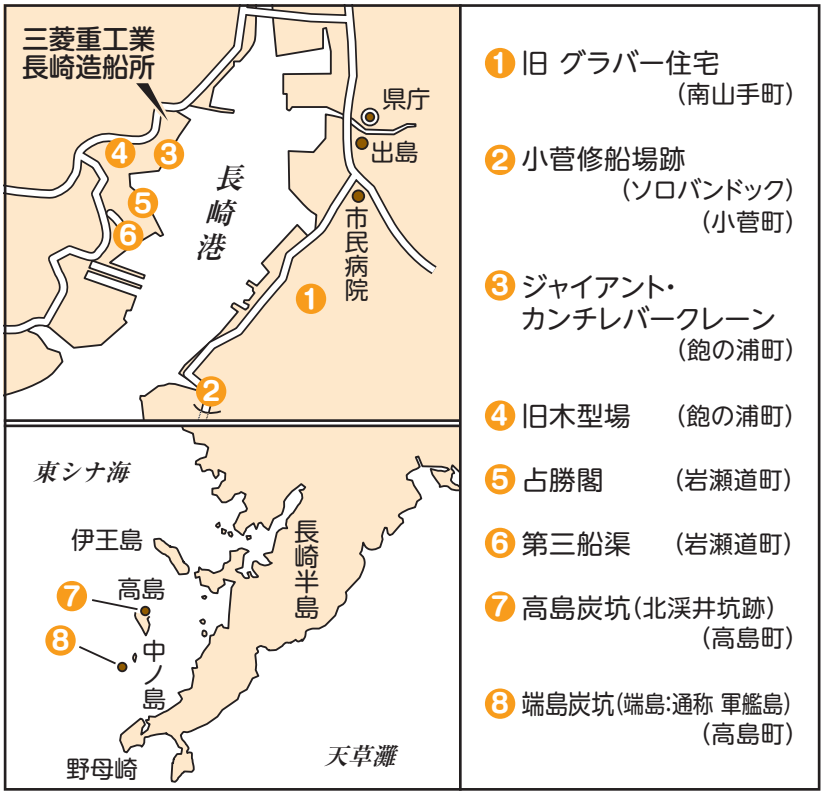
また、世界遺産登録に向けての取り組みは、行政だけでは達成できません。市民や企業の皆さま、一緒に盛り上げていきましょう!!

◀旧グラバー住宅

1863年に建てられた、日本の近代化に貢献したトーマス・ブレーク・グラバーの住宅です。グラバーは、炭鉱経営や修船場の創設を行いました。そのほか、全国に先駆けて蒸気機関車も長崎に走らせました。

▲小菅修船場跡

1869年、薩摩藩とグラバーによって船の修理を目的に造られました。蒸気機関を動力とする、曳揚(ひきあ)げ装置を装備した洋式船架（船を引き上げて乗せる船台）です。曳揚げ小屋（写真左上）は、現存する日本最古の本格的な煉瓦(れんが)造建築です。船を引き上げるレールがソロバン状に見えることから、「ソロバンドック」といわれています。



◀ジャイアント・カンチレバークレーン

日本で初めて設置された最新式電動クレーンで、英国で製造されました。1909 年、飽の浦の岸壁に設置されていましたが、1961 年に今の水の浦岸壁に移設されました。現在も、大型舶用プロペラなどの船積み用に使用しています。

船渠（ドック）とは、船の建造や修理をする設備のことです。第三船渠は、1905 年に竣工した、当時東洋最大級のものです。排水ポンプは 100 年経過した現在も稼働しています。

▼第三船渠（せんきょ）

三菱重工業㈱長崎造船所提供

三菱重工業㈱長崎造船所提供

▲占勝閣（せんしょうかく）

1904 年、第三船渠を見下ろす丘に建設された木造洋館です。1905 年に東伏見宮依仁親王殿下（ひがしふしみのみやよりひと）が宿泊した際に「風光景勝を占める」という意味で命名されました。現在は、迎賓館として進水式などの接客用に使用されています。

三菱重工業㈱長崎造船所提供

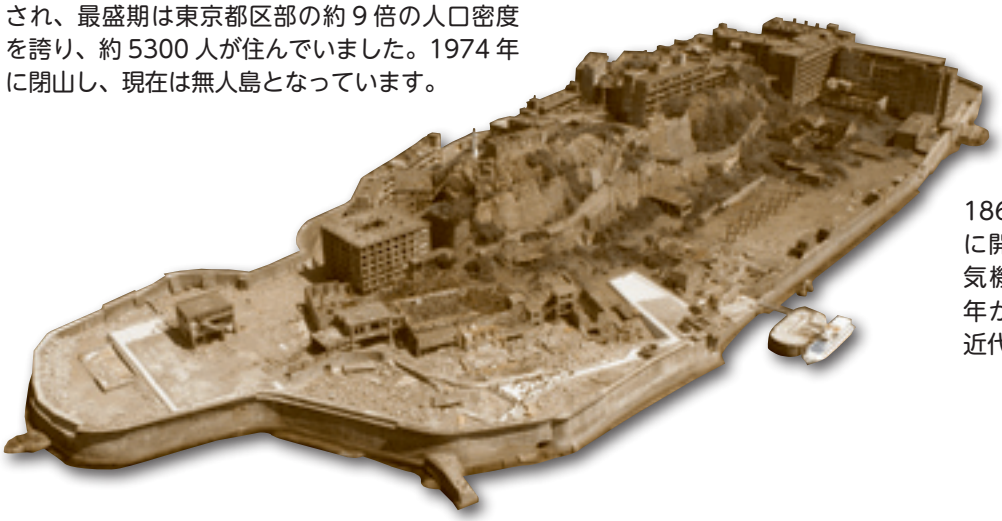
◀旧木型場（きがたば）

1898 年、鋳物（いもの）用木型の製作所として建てられた煉瓦造りの建物です。1985 年から三菱史料館として活用されています。収蔵品には、幕府が 1857 年にオランダから輸入した日本最古の工作機械である「竪削盤（たてけずりばん）」などが展示されています。

※三菱重工業㈱長崎造船所内は非公開ですが、史料館のみ予約（☎ 828-4134）をすれば見学ができます。

▼端島炭坑（端島：通称 軍艦島）

明治中期以降に本格的に採炭が始まり、1890 年からは三菱の所有となりました。明治後期は、高島炭鉱の主力として、八幡製鐵所などへ質の良い石炭を供給しました。大正以降は高層住宅が建設され、最盛期は東京都区部の約 9 倍の人口密度を誇り、約 5300 人が住んでいました。1974 年に閉山し、現在は無人島となっています。



▲高島炭坑（北渓井坑跡）（ほっけいせいこう）

1869 年、佐賀藩がグラバーとともに開発した炭坑で、日本で初めて蒸気機関を導入した立坑です。1881 年からは三菱が所有し、日本の炭坑近代化の先駆けとなりました。